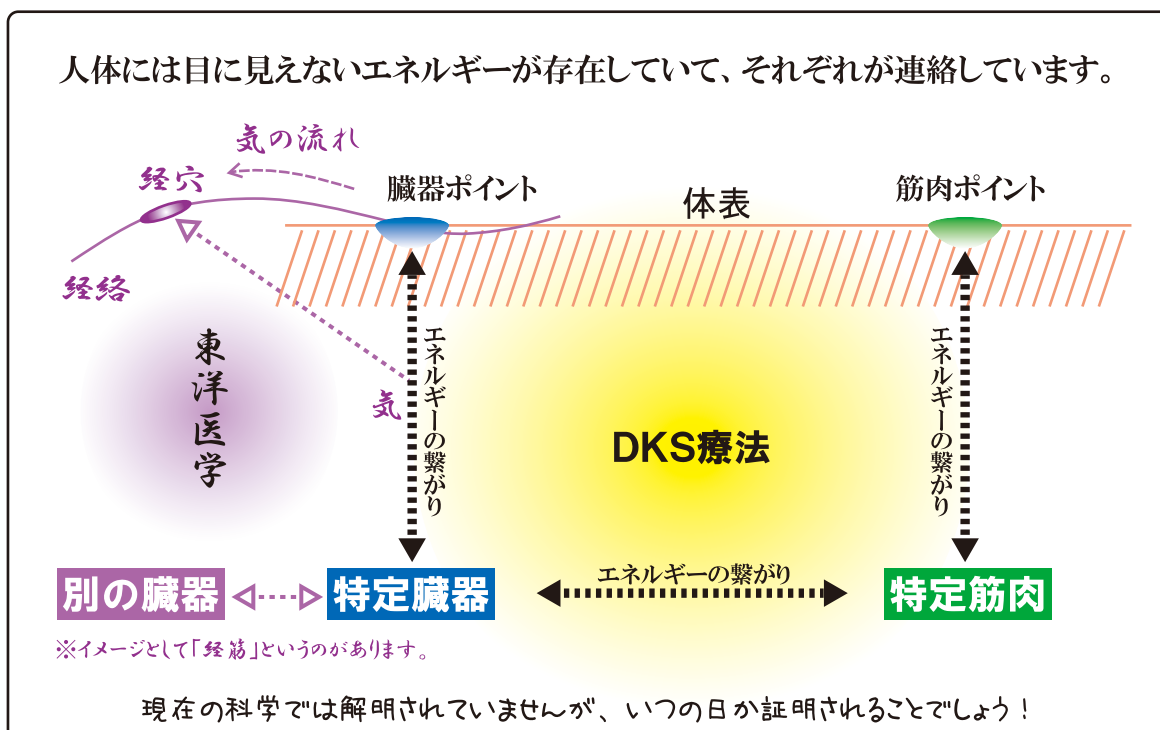


## エネルギー連繫

神経や血管のように「エネルギーの繋がり」が存在していて、各器官(臓器・筋肉など)は、それぞれが体表に反応ポイントを持っています。また、特定の器官同士もエネルギーの繋がりを持っています。



### <DKS療法では、このエネルギーを「電解質イオン」と捉えています>

身体の正常な機能活動は、人体に溶け込んでいる  
“プラスイオン”と“マイナスイオン”のバランスによるものです。

#### 器官のイオンバランスが乱れると

- ① 特定器官にプラスイオンが停滞し、器官の機能が低下します。
- ② プラスイオンは発痛物質ですので、「痛み」や「違和感」を感じるようになります。  
※「臓器」は痛みを感じにくい器官で、「筋肉」は痛みを感じやすい器官です。
- ③ その器官の反応ポイントもプラス状態になります。

#### 慢性的にプラスイオンが停滞すると

- ① 連繫器官(臓器⇄筋肉)に波及します。
- ② 波及部位の反応ポイントがプラス状態になります。

## イオンバランスを整える

痛み軽減・機能回復には、異常器官の「プラスイオンの中和」が必要です。

- ① 反応ポイントのプラスイオン中和は、原因部位のプラスイオン中和を生みます。
- ② 波及器官ではなく、原因器官のプラスイオンの中和が必要です。
- ③ DKS療法では「臓器⇄反応ポイント」「筋肉⇄反応ポイント」「臓器⇄筋肉」の関係から、最適ポイントを選定します。

プラスイオンの中和に最適なもの = 高純度N型半導体ゲルマニウム

刺激による効果が目的ではなく、**イオンバランスの乱れを調整**することが目的です。